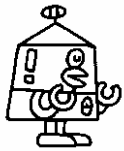


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

赤ちゃんが入っていた、^{ようすい}羊水のはたらきを教えて



外から何かがぶつかったり、急な温度変化があったとき、
羊水が、それらから赤ちゃんを守る役目をするのさ。

赤ちゃんは、お母さんの体内で羊水の中に入っている

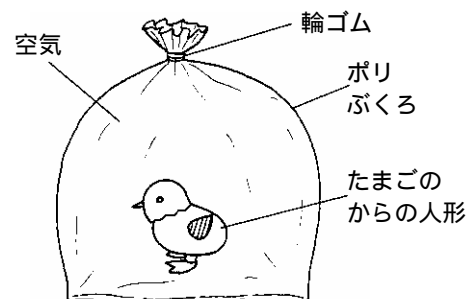
生まれたばかりの子ウシや子イヌは、毛がぬれているように見えます。そして、母親が毛をなめてやっているうちに、毛がふっくらしてきて、赤ちゃんは元気に動き始めます。赤ちゃんで生まれてくる動物は、母親の体内で、みんな羊水とよばれる水が入ったふくろにつつまれているので、ぬれているのです。

母親の体内で^{らんし}卵子が^{せいし}精子と結びついて^{じゅせいらん}受精卵になると、赤ちゃんができます。人間の受精卵は、約0.1~0.2mmという小さいものですが、およそ38週間(266日)後には約3~4Kgの赤ちゃんに成長して生まれてきます。赤ちゃんは、羊水の入ったふくろの中で、へそのおから^{えいよう}栄養を受け取ったり、体内にできないものを母親にわたしたりしています。赤ちゃんの成長に合わせてふくろも大きくなり、赤ちゃんは羊水の中で、さかんに体を動かしています。

水や空気をつまったふくろの中の物は、ぶつかってもこわれにくい

夜店で、こわれやすい小さな人形などを買くと、空気でふくらませたポリふくろの中に入れてわたしてくれることがあります。こうすれば、何かにぶつけても、ふくろの中の空気が守ってくれるので、人形の一部がかけたりしないのです。

同じように外から何かがぶつかっても、羊水の中の赤ちゃんは水に守られています。また、急に冷たい空気にあたって、羊水全体の温度が変化するのに時間がかかるので、赤ちゃんは急な温度変化から守られているのです。



ぶつかっても、こわれにくい